

学年PTA 「進路について」

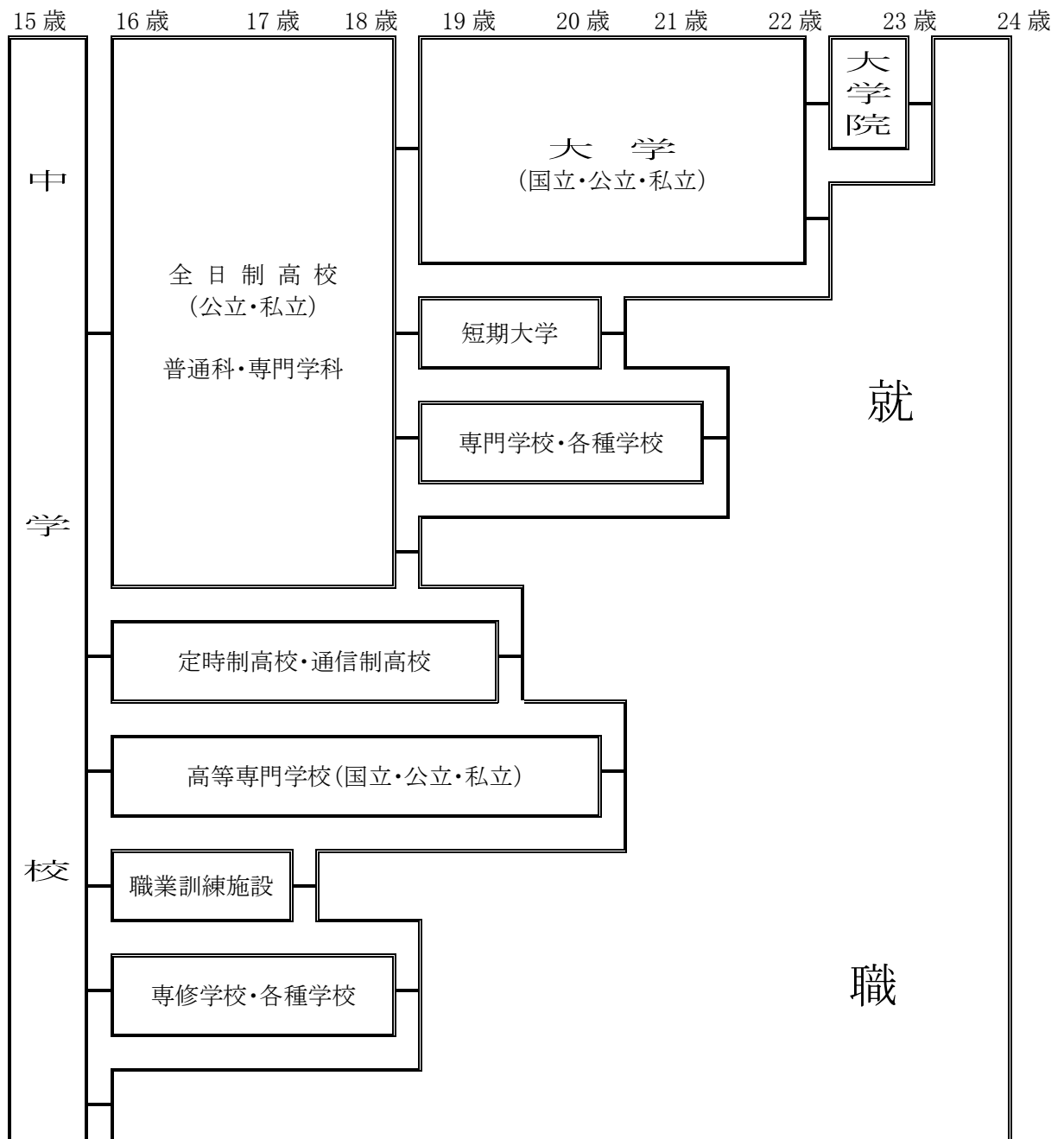
1. 進路選択に向けて

1. 進路の学習について

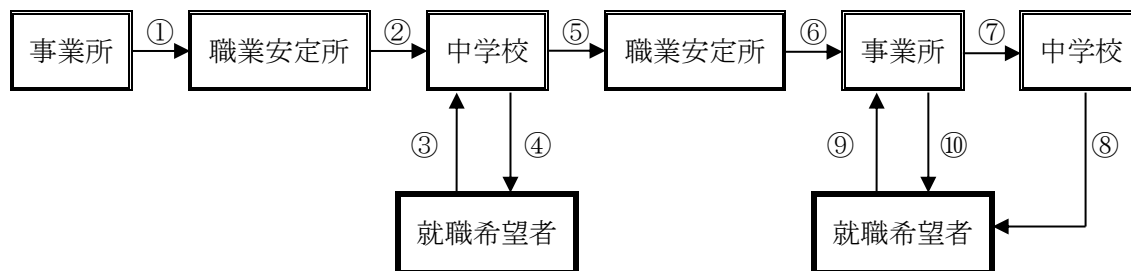
【進路の学習の基本】



【進路選択の一般類型】

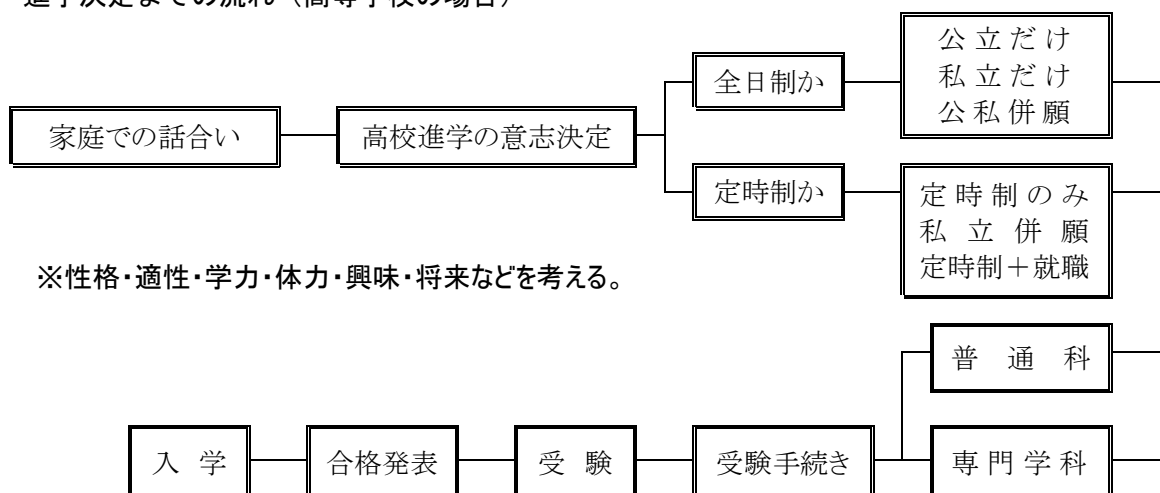


2. 就職決定までの流れ



- ①新規学卒者を採用したい事業所は、求人票を職業安定所に提出する(新規学卒者を新聞広告やアルバイト情報誌などで募集・採用することは、職業安定法で禁止されている)。
 - ②職業安定所は、求人一覧表を中学校に送付する(2学期以降)。
 - ③本人と家族の相談により就職の意志を決定した生徒は、担任の先生に申し出る(または進路希望調査に書いて提出する)。
 - ④中学校は求人一覧表などを参考に、就職希望者との相談を行い、応募する事業所を決定する。また、職業適性検査を実施する。
 - ⑤中学校は応募書類(職業適性検査結果・職業相談票など)を、職業安定所に送付する(10月～11月中旬くらい)。
 - ⑥職業安定所は、応募書類を事業所にわたす。
 - ⑦事業所は書類選考の上、面接選考の実施を中学校へ連絡する(12月以降)。
 - ⑧中学校は、就職希望者に面接選考の実施を連絡する。
 - ⑨就職希望者は、面接選考を受ける(なお、住み込み求人の場合は、父母同伴での面接が多くなっている)。
 - ⑩事業所は、採用・不採用の通知を1週間以内に送付する。採用の場合は、事業所が求める手続きを行って就職が決定する。不採用の場合は、④～⑩を繰り返す。
- ※就職のための手続きは、進学のための手続きよりも時期が早いので、早めに進めていかなければなりません。また、事業所見学会・職業相談に積極的に参加することも必要です。

3. 進学決定までの流れ(高等学校の場合)



- (1)進学についての話し合い(本人と家族)は、1学期中に行うことが望ましい。
- (2)進学の意志決定を、担任に伝える(または進路希望調査に書いて提出する)。
- (3)性格・適性・学力・体力・興味・将来などを考えて、担任と進路相談をする。
- (4)志望校・課程・学科の決定をする(最終決定は12月の個人懇談会)。

(5)受験手続き(1月)	※公立高校受験の詳しい日程は10月に発表される予定	
(6)受 験(1～3月)	私立高校一般入試	A日程 2月13・14日、B日程 17・18日
	公立高校一般入試	3月4日
(7)合格発表(2～3月)	私立高校合格発表	各高校で設定(3月上旬まで)
	公立高校合格発表	3月17日

□進路選択において大切なこと

●進路の選択は、自己実現の選択である

「進路の選択」は、本人はもちろん保護者の方が頭を悩ませることが多いと思います。どちらかというと学力ばかりに目が向きがちですが、適性・興味・関心、将来の職業に結びつくか等をもとに自己実現が可能な選択であるかどうかを的確にとらえ、将来を見通した「生き方」を考えた選択をさせたいものです。

●自分の意思で選択した進路だという自覚と責任を持たせる

親の助言や励ましは大切ですが、親の考えのみで進路を決定するものではありません。お子様の意思と責任において、「自分の最もふさわしい進路として決断した」という自覚を持たせることが何よりも重要です。合格するだけが最終の目的ではなく、何より大切なのは入学してからいかに充実した高校生活を送るかです。自分で選んだ道だからこそ、厳しくともやりとげる力が湧いてくるのです。

●高校に入りさえすれば・・・中途退学が増えています・・・

近年退学者が増えています。その原因は進路先変更が大半を占めています。その理由として「親に言われたから」「友達が行くから」「ここしか行くところがなかったから」等、本人の意思が感じられない進路選択の結果が大半です。高校は義務教育ではありません。しっかりと目的意識を持って、進学させることが重要です。また、一方では、「絶対にあの高校でなければだめだ」という考えも、選択の余地をせまくしてしまいます。目標の選択肢は一つとは限りません。柔軟に考えることも大切です。

●進路は人それぞれ・・・人と比べるなかれ

一人ひとりの生き方が異なるように、子ども一人ひとりに違う進路があります。我が子への期待の大きさから、兄弟姉妹や他の子と比較するのは禁物です。

●人生の先輩としての親(保護者)の姿勢は、

(1) 親子で十分話し合う～11月末の進路決定まで何度も家族で話し合ってください

- ・気軽に話し合える家庭の雰囲気
- ・子どもの将来を見通して(目先にとらわれない)～子どもの見通しはまだ未熟で、変わりやすい
- ・子ども自身が張り合いの持てる選択と決定を～「本当は〇〇希望だが、仕方がないから△△」ではなく、「△△に目的とやる気を持って通える」助言を
- ・公平な判断を～親の希望を押し付けない、近所や親戚の目に左右されない、兄弟姉妹・他の子と比較しない。

(2) 親はあくせくせず、よい環境作りを、そして甘やかさず・・・

- ・受験をするのは、親ではなくお子様です。プレッシャーをかけたりあくせくしたりするのではなく、応援しているよという言葉と気持ちが大切です。
- ・思春期であり受験期の子どもたちは、心身のバランスがうまくとれない時があります。日常生活の小さな変化にも、細かくあたたかい目を注いであげてください。睡眠、学習時間のとり方、食事、息抜き等、健康管理に気を配ってあげてください。心身の健康が基本です。
- ・受験生だからと特別扱いするのは、本人のためになりません。目標に向かって努力しやりぬくこと、そして社会に出るためのマナーや心遣いを身につけること等、学力だけでなく心の成長が大切です。

(3) 志望校の情報を子どもと共に

- ・希望校の学校説明会には、お子様だけでなく保護者の方も出席して話を聞くとよいと思います。学校には各高校のパンフレットもありますので、必要な場合は申し出てください。また、各高校のホームページも利用してください。
- ・進路日より、進路のしおり(6月下旬配布～進路に関するすべてが載っています)等に、必ず目を通してください。
- ・学年・学級 PTA、進路相談、進路説明会には、ぜひご参加いただけますようお願いいたします。

2. 進路決定までの1年間の流れ(予定)

月	行事・テスト	進路関係	
4	1学期始業式	・進路の学習① 進路学習を始めるにあたって 進路選択の心がまえ、進路日程	進路希望調査①
5	学年PTA 修学旅行	・進路の学習② 高校説明会への参加の仕方	
6	第1回定期テスト 中体連	・進路の学習③「進路のしおり」を活用する *複数の私立高校で1回目の学校公開	進路希望調査②
7	中体連 期末懇談 陸上競技大会 1学期終業式	・進路の学習④ 進学先について	
8	2学期始業式 第2回定期テスト	*多くの公立高校で夏休み中や8月下旬に学校公開 *私立学校合同展	
9	<u>学力テストA</u> 学校祭(含合唱コン)	・進路の学習⑤ 進路先の調査(公立・私立高校の研究) *公立・私立校で学校公開	進路希望調査③
10	前期通知表配付 <u>学力テストB</u> 第3回定期テスト 進路説明会	・進路の学習⑥ 高等学校の入学選抜について *各種学校見学会 職業適性検査 職業相談 *公立学校公開 *多くの私立で2回目の学校公開、相談会	進路希望調査④

具体的な目標を絞り込む

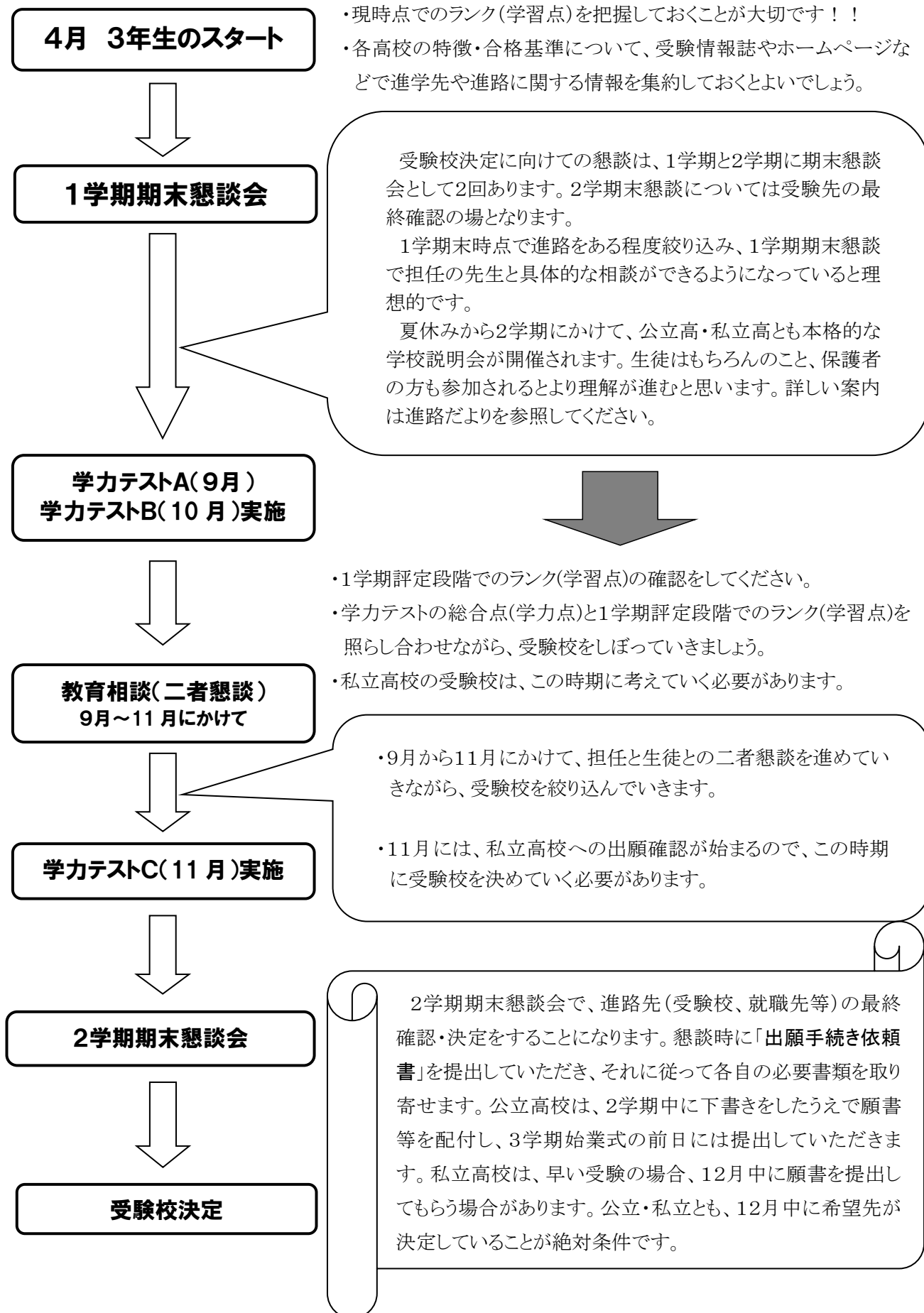
11	学力テストC	・進路の学習⑦ 出願手続きについて ・進路用写真の撮影 ・進路の学習⑧ 面接について * 推薦依頼書提出・締切 * 就職出願→決定(12月頃) * 多くの私立で3回目の学校説明会、相談会	進路希望調査⑤ =出願校の決定
12	期末懇談 2学期終業式	・進路の学習⑨ 公立高校願書作成について ・出願手続き依頼書提出 ・進路の学習⑩ 私立高校願書作成について * 推薦手続き、公立願書配布	
1	3学期始業式 学年末テスト	・公立願書回収(冬休み最終日に登校) ・進路の学活⑪ 私立願書配付 ・私立願書回収、公立願書一括受付 ・進路の学習⑫ 公立出願変更手続について ・進路の学習⑬ 私立受験・面接について 私立高校推薦・単願入試	
2		・私立願書一括受付 ・進路の学習⑭ 公立受験・面接について 公立高校推薦入試 高等専門学校試験 ・進路の学習⑮ 私立AB日程下見について 私立高校入試 A日程2/13・14 B日程 2/17・18 * 私立合格発表	
3	卒業証書授与式	・進路の学習⑯ 私立高校入試反省、私立合格発表 ・進路の学習⑰ 公立下見・入試当日の動き 公立高校一般入試 3/4 ・進路の学習⑱ 公立高校入試反省・卒業後の動き * 公立高校合格発表 3/17 * 公立二次募集	

進路決断

出願準備↓出願

入試↓進路決定

《 資 料 》 進路決定に向けて 日程の大切なポイント



3. 公立高校入試全般について

公立(道立・札幌市立)高等学校入学者選抜に係る実施要項は例年、9月下旬に決定・通知されます。この資料は昨年のを参考につくっているため、今年度の細かな内容については、変更される場合があります。正式に決定した事項につきましては、進路だよりなどでお知らせしていきますので、進路だよりには必ず目を通しておいください。

－特殊な受検について－

札幌市外もしくは道外に転居される予定がある場合は、手続き上早く申請する必要があります。速やかにご連絡ください。特に、道外に転居される場合は、転居される都府県の教育委員会に各ご家庭から直接問い合わせをする場合がほとんどです。事前に保護者が転居先の教育委員会に行って直接説明を聞き、出願書類を受け取るかたちの都府県もあります。詳しい住所が未定でも、転居することが決まっているのであれば、問い合わせを行ってください。そして、中学校へ相談・入試要項や出願書類の提出をお願いします。

また、受験に際して身体的に特別な配慮が必要な場合があれば、出願高校と事前に相談・協議が必要となります。1学期の保護者懇談にて学級担任に連絡・相談してください。

1. 受検できる公立高校

- (1)札幌市内に住所がある場合の就学すべき(＝制限のない)全日制の課程普通科の公立高等学校
- (2)札幌市内に住所がある場合で、石狩学区外の全日制の課程普通科の公立高校を受験する場合
 - ・定員の10%までという学区外就学枠の制限を受けます。
 - ・定員が3学級以下の場合は、50%までという学区外就学枠の制限を受けます。
- (3)全日制職業科
 - ・学区外就学枠という制限を受けることなく、全道すべての高校を受験できます。
- (4)定時制
 - ・学区外就学枠という制限を受けることなく、全道すべての高校を受験できます。
- (5)単位制(自分に必要な単位を、自分で考えて選び、履修する高校)
- (6)普通科フィールド制(共通履修科目のほかにフィールドと呼ばれる選択科目を履修する高校)
- (7)通信制(スクーリングを受けながら、4もしくは3年間で卒業をめざす高校)

2. 選抜について

◎公立高校の入学者選抜について、全日制の一般選抜の方法として北海道教育委員会の『道立高等学校入学者選抜の手引』には次のように書かれています。

- ①募集人員の70%程度は、個人調査書の「各教科の評定」の記録と学力検査の成績を同等に見て選抜する。
- ②募集人員の15%程度は、個人調査書の内容等を重視して選抜する。
- ③募集人員の15%程度は、学力検査の成績を重視して選抜する。

◎定時制の一般選抜の場合は、個人調査書の内容および面接の結果によって選抜されることになっています。

※市立札幌大通のみ、学力検査と面接で合否が判定されます。

3. 公立高校の入学選抜に用いられる学習点(内申点)について

(1)学習点について

学習点(内申点)とは、中学校3年間の学習成績を数量化したもので、中学校での各学年末の通知表の評定により算出されます。満点は、315点で、最低点は63点です。

(2)学習点の計算方法について

学習点は、1学年・2学年の学年末評定合計をそれぞれ2倍したものと、3学年の学年末評定の合計を3倍したものを合計して求められます。

※学年末評定が確定していない段階での「仮の学習点」の求め方

3年1学期評定が、まだの段階	1年の学年末評定の合計×2+2年の学年末評定の合計×5
3年2学期評定が、まだの段階	1年の学年末評定の合計×2+2年の学年末評定の合計×2 +3年の1学期評定の合計×3
3年学年末評定が、まだの段階	1年の学年末評定の合計×2+2年の学年末評定の合計×2 +3年の2学期評定の合計×3

(3)学習点とランクの関係について

一般的に算出された学習点を満点から 20 点ごとにアルファベットで分類したものを「ランク」と呼んでいます。

※「ランク」は、便宜的に使われるものです。

Aランク (オール5)	315～296	Hランク	175～156
Bランク	295～276	I ランク	155～136
Cランク	275～256	Jランク (オール2)	135～116
Dランク (オール4)	255～236	Kランク	115～ 96
Eランク	235～216	Lランク	95～ 76
Fランク	215～196	Mランク (オール1)	75～ 63
Gランク (オール3)	195～176		

※ オール5=315 オール4=252 オール3=189 オール2=126 オール1=63

4. 公立高校の推薦選抜について(現在は自己推薦)

※学校推薦の場合は…

それぞれの中学校では、基準を設けて推薦希望者の審査を行います。中学校長の推薦によって入学するということは、中学校からの推薦生徒だという看板を背負って高校3年間を過ごすことであり、学習面や生活面、諸活動において、一般選抜で入学する生徒以上の活躍が要求されということです。ですから中学校では、それができる生徒かどうかということ、大勢の先生方で審査していきます。したがって、推薦希望者全員が推薦されるとは限らないので、注意が必要です。(私立高校の推薦入試についても同様です。)

※昨年度の「進路のしおり」より抜粋

(1)自己推薦

道立高等学校入学者選抜において、「出願する高等学校の『入学者の受け入れに関する方針』に合致すると考える生徒が自己推薦できることとする」というかたちになっています。希望をすれば、推薦委員会の審査を受けずに誰でも出願することができます。ただし、合格が約束されるわけではなく、時には「狭き門」となっている場合もあります。結果が良くなくても一般受験に向けて気持ちを切り替えて頑張る強い意志が必要になることも念頭に置いてほしいと考えます。

今年度の入試における実施校や高校ごとの推薦枠などの詳細は、後日発表になります。「進路だより」や10月開催予定の「進路説明会」でお伝えします。

(2)推薦による入学者の範囲

- ・農業に関する学科及び水産に関する学科 募集人員の 50～90%程度 高校が定める
- ・普通科 募集人員の 10～40%程度 高校が定める
- ・その他の学科 募集人員の 30～50%程度 高校が定める

※工業、商業などの専門学科は推薦入試を行います、普通科では行う高校と行わない高校があります。

(3) 道外など学校推薦の校内推薦基準

(1) 共通推薦基準

- ①令和6年3月に本校を卒業する予定の生徒。
- ②出願する動機および理由が明確であり、志望先を第一に希望する生徒。
- ③出願する学科に対する適性、興味、関心及び学習意欲を有する生徒。
- ④学校長の推薦を受けるにふさわしい学校生活を送っている生徒。
- ⑤中学校での学習活動、生徒会・学年・学級での諸活動、部活動、ボランティア等において積極性が認められ、高校入学後も確かな高校生活を送ることができると見込まれる生徒。
- ⑥日常の学校生活から、卒業までの学習・生活面に対する意欲の継続が十分可能であると見込まれる生徒。

(2) 公立高校(道外)推薦基準

- ①(1)の共通推薦基準①～⑦を満たしていること。
- ②生徒会活動・部活動・ボランティア活動・学年、学級活動等で顕著な活動が認められ、高校入学後もリーダーシップを発揮しうられる生徒。
- ③一般受験した場合でも合格できる学力を有する生徒。(学力テスト総合ABCを参考にする)
※道外公立についてはなるべく情報を集めて、検討する。
- ④専門学科
・当該学科に対する適性、興味・関心及び学習意欲を有する生徒。

(3) 公立高校以外の学校推薦基準

- ①(1)の共通推薦基準①～⑥を満たしていること。
- ②各学校が示す独自の目的、基準に合致していること。
- ③部活動等に関する特別な推薦でも「学校推薦」の場合は、上記の①②を満たしていること。

5. 高等専門学校(高専)について

高専は、大学や短大と同じような高等教育機関ですが、中学校卒業生を受け入れ、5年間の教育で専門技術者を養成します。現在、道内には函館、苫小牧、釧路、旭川に工業高等専門学校があります。

- ①高専の卒業後、さらに深く学ぶため2年間学習する専攻科にも入学できます。また大学の学部3年次への編入学制度もあります。
- ②入学者選抜には、(自己)推薦による選抜と学力試験の成績による2つの方法があります。
- ③入試は2月中旬ごろに行われ、道立高校一般選抜の学力検査とは別の5教科の問題で行われます。面接もあります。公立入試日と違う日に行われるので併願も可能です。ただし、公立高校合格発表前に、入学確約書の提出や入学手続きの完了を求められる学校もあります。

6. 通信制高等学校について

通信制は学校によって違いはありますが、月に何回かのスクーリングとレポート提出、それに加えた試験で高校卒業資格を取得します。アルバイトをしたり、趣味を極めたり、スポーツや芸能活動といった学校に定期的に通うのが難しい人でも、普段は自宅学習をして自分のペースに合わせて勉強を進めることができます。学校に生徒やその親が相談に乗ってもらえるカウンセラーがいたり、インターネットを使ってレポートを提出できたりと、学ぶ人を支える仕組みを各学校で工夫しています。ただ、全日制や定時制は学校に行きカリキュラム通りに勉強を行うことで高校を卒業できますが、通信制は基本的に自学自習となります。レポートも自分で教科書を見ながら作成しなければなりませんし、そもそも誰かが勉強時間を決めてくれるわけではないため、自分で勉強時間を確保し、自ら学習に取り組む大変さがあることを知っておく必要があります。

また、試験日が違っていたり、私立通信制の募集はかなり早い時期から始めたりするので、中学校からも情報は伝えますが、自分で行きたい学校の情報をホームページでチェックしておくことをお勧めします。

4. 私立高校の受験について

1. 最近の傾向

私立高校は、各校とも独自の教育カリキュラムなど特色ある学校として切磋琢磨し、特に系列大学への進学制度や独自の入学金免除・授業料免除といった特待制度に力を入れるなど、公立高校とは違った特色を持っています。

そのような特色や、進学・部活動の実績などに魅力を感じ、希望する私立高校のみを受験する「単願」で受験する生徒や、公立高校と両方を受験した場合でも私立高校に進学する生徒が増えてきています。

2. 札幌市内および札幌近郊の私立高校

	共学校	男子校・女子校
A日程	北海学園札幌、科学大学、札幌大谷、札幌静修、札幌北斗、札幌光星、札幌山の手、札幌新陽、東海大札幌、札幌創成、札幌日大、日本航空北海道、小樽明峰、函館ラ・サール、駒大苫小牧、北海道栄、旭川実業 など	藤女子(女子校)
B日程	北海、北星大附属、立命館慶祥、札幌第一、文教大附属、札幌龍谷、とわの森三愛、小樽双葉、大谷室蘭 など	北星女子(女子校)
他	クラーク記念国際・池上学院・星槎国際・飛鳥未来 など	北嶺(男子校)

①多くの私立高校の一般受験は、A日程とB日程に分かれています。そのため、A日程とB日程から1校ずつ受験することが可能です。

②私立高校によって、入試での面接の有無、3教科試験なのか5教科試験なのかの違いがあります。また、同じ高校でも、推薦・単願・併願の違いや学科・コースの違いで面接の有無、教科の試験の有無、3教科試験なのか5教科試験なのかの違いがあります。

3. 推薦入学について

基本的には、昨年度までの公立高校の推薦受験と同じ考え方です。公立高校より専門性や特殊性が求められる場合があります。

4. 特待制度について

私立高校によっては、学習点(ランク)や入試当日の得点、部活動での成績などによって、入学金が全額(半額)免除されたり、授業料を3年もしくは1年間免除されたり、公立高校の授業料との差額を支給されたりなど、いろいろな特待制度があります。

ただし、これらの特待制度を利用するには、願書に特待制度を利用することを記入したり、事前に「申請書」などを提出したりするなど、意思表示が必要です。それらの学校では、特待制度の基準にあてはまっても未記入や未提出では、利用しないと判断されますので、自分でしっかりと確認することが必要です。

5. さまざまな学校について

1. 専修学校と各種学校

専修学校と各種学校はともに、「就職もしくは生活に必要な技能の育成または教養の向上」を目的に設立された学校です。

専修学校には、①「中学校卒業者を対象とした高等専修学校(高等課程)」

②「高校卒業者を対象とした専門学校(専門課程)」

の二種類があります。基本的に中学校卒業段階で進学できるのは、①の高等専修学校と高等課程のある②の専門学校です。

2. 札幌市内及び近郊の主な専修学校と各種学校

①札幌科学技術専門学校高等課程 総合技術科	通信制の高校に籍を置き、3年間で全日制スタイルの学習をしながら高校卒業資格を取得。「情報技術」「環境・バイオ」「電気」「自動車」の4つの分野から興味・関心に応じて自分に合った分野を学ぶ。
②修学院札幌調理専門学校	高等課程(1年)定員30名 卒業すると国家試験免除で調理師免許を取得できる。
③札幌高等技術専門学校	学校と事業所の産学協同の専門学校。白石区栄通13丁目にあります。 2年コース(中学新卒者)定員10名 授業料無料などの特典があります。

※詳しくは、後日配布される「進路のしおり」などで確認してください。

6. 育英(奨学金)制度について

- ・北海道高等学校奨学金
- ・日本学生支援機構
- ・梅津奨学金
- ・札幌市奨学金
- ・札幌市特別奨学金
- ・交通遺児奨学金
- ・あしなが奨学金
- ・似鳥国際奨学財団
- ・北海道私立高等学校授業料軽減制度
- ・母子寡婦福祉資金
- ・北海道公立高等学校定時制課程及び通信制課程生徒学資金貸付
- ・生活福祉基金

以上のものだけでなく、奨学金制度の連絡が来ましたらその都度「進路だより」でお知らせします。後日配付される「進路のしおり」も参照してください。なお、奨学金制度によって、出願(申し込み)時期、金額、基準(家計の収入、成績)などに違いがあります。申込要領をよく読み、提出の締切期限を守って手続きを進めてください。ぎりぎりでは不備があった時に対応できない可能性もありますので、早めに取り組むことをお勧めします。

7. 高等学校等就学支援金制度について

高等学校等就学支援金制度は国の授業料支援制度で、授業料を国が負担する制度です(返済不要)。国立・公立・私立はもちろん専修学校や、各種学校でも①准看護師、②調理師、③製菓衛生師、⑤美容師の国家資格者養成課程の指定を受けている学校で利用することができます。

受給にあたっては、事前に申請が必要ですが、この申請は高校へ進学した後に行います(進学していることが条件となりますので、中学校段階では申請できません)。また、受給内容については、各家庭の所得に応じて額が変わりますので、申請時に納税証明書などの書類が必要になります。

学校や所得によってはかなり減額になる場合がありますので、進路選択の幅も増えることになるかと思えます。ただし、支給される額は「授業料」ですので、その他にかかる諸経費は家庭負担となります。特に、私立高校や専門学校では学校によって諸経費はまちまちですので、パンフレットを参照するか、それぞれの高校に直接問い合わせをしてみるのが、もっとも確実です。

※詳しい内容は、文部科学省のHPにも載っています。学校でもチラシを配布しますので、参照してください。

学びたいキミを応援します。

大切なお知らせです。
必ず保護者に渡してください。

みんなに知ってほしい

高校生への2つの支援

返還不要の支援です。それぞれ申込みが必要です。

① 高等学校等就学支援金

国の授業料支援のしくみです。

年収約910万円未満の世帯が対象

学校種：高等学校、特別支援学校（高等部）、高等専門学校（1～3年生）、専修学校（高等課程）など

 申込みは、学校へ 入学時の4月など手続きが必要な時期に学校から案内があります。

② 高校生等奨学給付金

教科書費・教材費など、
授業料以外の教育費支援のしくみです。

生活保護世帯、年収約270万円未満（住民税所得割非課税）の世帯が対象

学校種：高等学校等就学支援金の対象校と高校の専攻科（特別支援学校は「特別支援教育就学奨励費」の支援があります）

 申込みは、学校またはお住まいの都道府県へ
毎年7月頃に手続きが必要です。詳しくは学校またはお住まいの都道府県にお問合せください。

都道府県の
お問合せ先



文部科学省のホームページから確認する場合

文部科学省ホームページ（<https://www.mext.go.jp/>）> 教育
> 小学校、中学校、高等学校（ページ下部「教育カテゴリー一覧」）
> 高校生等への修学支援 > 問合せ先（ページ右側）> 高校生等奨学給付金による支援

 新入生は、4～6月に一部早期支給の申請ができます。

都道府県によって実施状況が異なります。

参考：保護者等の年収目安と支給額（令和3年度）

 両方利用できます！

保護者等の年収目安	約270万円未満	約270～590万円	約590～910万円	約910万円以上
①高等学校等就学支援金	国公立：約12万円			
	私立：約40万円		私立：約12万円	
②高校生等奨学給付金	約3～15万円			